

むかわ竜を新属新種の恐竜として「カムイサウルス・ジャポニクス」と命名

北海道大学総合博物館の小林快次教授を中心とする北海道大学，むかわ町穂別博物館，岡山理科大学，米国ペロー自然科学博物館，筑波大学，モンゴル古生物学地学研究所，東京学芸大学の共同研究では，北海道むかわ町穂別で発見された国内最大の恐竜全身骨格である，通称「むかわ竜」が比較研究と系統解析の結果，新属新種の恐竜であることを明らかにし，「カムイサウルス・ジャポニクス」(*Kamuysaurus japonicus*)という学名を命名しました。

カムイサウルスは，系統解析の結果，ハドロサウルス科ハドロサウルス亜科エドモントサウルス族に属し，ロシアのケルベロサウルスと中国のライヤンゴサウルスに近縁な恐竜であることがわかりました。組織学研究の結果，カムイサウルスは，年齢が 9 歳以上の成体で，体長 8 メートル，体重 4~5.3 トンの恐竜であることが判明しました。また，カムイサウルスの頭の骨である前頭骨には，鼻骨との大きな関節面があり，トサカを持っていた可能性が示唆されます。そのトサカは，北米から発見されているブラキロフォサウルスの亜成体が持つトサカのような，薄く平たいトサカであったと考えられます。



図 1. カムイサウルスの頭骨の復元画

カムイサウルスを含むエドモントサウルス族の最新共通祖先は，現在のアラスカを通じてアジアと北米に広く分布していましたが，カムイサウルスとケルベロサウルスとライヤンゴサウルスの仲間（クレード）は，カンパニア期には極東地域に存在し，その後独自の進化を遂げたと推測されます。カムイサウルスは，海成層から発見されていますが，小林教

授らの解析により，初期のハドロサウルス科にとって，海岸線を生息環境としていたことが多様化に大きく寄与していることが判明しました。



図 2. 海岸に棲むカムイサウルスの復元画

本研究成果は，2019 年 9 月 5 日に英科学誌 *Scientific Reports* 誌に掲載されました。

骨化石を岩から取り出すクリーニング作業がほぼ終了して、体の全体像がくっきりとわかるくらいの全身骨格標本であることが確認されました（図 3）。特に，頭骨・肩帯・前肢・胴椎骨・腰帯・大腿骨・尾椎骨が揃っていることがわかります。全身のおよそ 6 割の骨が確認され，体積で言えば 8 割を超える骨格と言えます（図 4）。大型恐竜としてこれだけ骨が揃った全身骨格化石は本邦初です。



図 3. むかわ竜全身骨格写真



図 4. カムイサウルスの骨格図（白部が発見された部位）

共同研究によって、むかわ竜には他の恐竜には見られない固有の特徴が多くみられ、新属新種である可能性が極めて高くなりました。例えば、華奢で細い前あしや背骨（胴椎骨）の上に伸びる突起（神経棘）が大きく前に傾いていることが挙げられます。それ以外にも多くの固有の特徴が頭骨にもみられ、むかわ竜は他の恐竜とは異なると言えます。

系統解析を行った結果、むかわ竜は、ハドロサウルス科のうちのハドロサウルス亜科に属することが判明しました。さらに、その中でもエドモントサウルス類（族）というグループに属し、特に中国のライヤングサウルスとロシアのケルベロサウルスに近縁であることがわかってきました。

日文新聞发布全文 https://www.hokudai.ac.jp/news/190906_pr.pdf

文：JST 客观日本编辑部翻译整理